



節分号外編



～恵方巻について～

1月31日(金)の給食に登場!

節分は年に4回あり「節分」＝「季節を分ける」、季節の変わる日とされています。立春、立夏、立秋、立冬のそれぞれの前日が節分です。昔は、冬から春へと変わる、節目の節分は、1年の無事や幸福を祈り、昔から大事にされてきました。現在では立春の前日だけを指すことが多いです。

節分と言えば「豆まき」ですが、今となっては「恵方巻!」というくらい定番の行事食になってきました。節分の日はその年の「恵方」を向いて、太巻きを食べます。「恵方」とはその年の歳神(年神)様がいらっしゃる方向で、干支によって決まります。その方向を向き、無言で一気に太巻きを丸かじりするのが「恵方巻」です。

給食の恵方巻の具は「卵焼き、桜でんぶ、ほうれん草」を巻き込んでいます。みんなはどんな願い事をするのでしょうか。

<恵方巻の食べ方>

① 恵方を向いて食べます。

今年の恵方は「**西南西**」です。幼稚園のランチルームで食べるお友だちは「もも4組」の方向を向いて食べましょう。保育園で食べるお友だちは「保育園の中庭の遊具」の方向を向いて食べましょう。

② 太巻きを切らずに丸かじり。1人1本食べます。

→太巻きを切らないのは、縁を切らないためです。

③ 願い事を思い浮かべて無言で食べます。

→食べている最中におしゃべりをすると運が逃げてしまいます。



参考：農林水産省

<鬼の苦手なイワシとヒイラギ>



節分には、恵方巻きの他にも柊鰯(ひいらぎいわし)があります。焼いた鰯の頭を柊に刺して戸口に飾ると魔除けの意味があり、柊の葉はのこぎり状になっているので、鬼の目を突いてよせつけないと言われています。また、鰯を焼いたときに出る煙やにおいも邪気を追い払うとされています。

参考：食育ずかん